

# 遠別漁港船揚場上架施設の完成

北海道開発局 留萌開発建設 留萌港湾事務所

遠別漁港は、日本海有数の好漁場である武蔵堆を近傍に控える北海道日本海北部に位置し、ホタテガイ養殖、小型定置網、刺し網等の地域沿岸漁業の生産拠点漁港として、また、周辺海域で操業する漁船の避難拠点として重要な役割を担っています。

遠別漁港では、道内外のホタテガイ生産を支える種苗供給基地として衛生管理体制の取り組みを推進するため、第2港区へ屋根付き岸壁の整備を行うとともに、獲る漁業から「つくり育てる漁業」の振興を図り、ホタテ稚貝の生産増加体制を構築するなどの大きな成果を挙げています。さらに、近年はホタテ成貝の韓国輸出が開始されており、我が国の水産物輸出促進に寄与しています。

このような中、昭和63年に遠別町が事業主体となり整備したリフト式上架施設は、建設から30年以上が経過し、施設老朽化の進行に加え、近年のホタテ養殖漁船等の大型化へ対応していないため、漁船修理等の作業に支障を来していました。さらに、第2港区を利用しているホタテ養殖漁業と上下架作業の動線が輻輳し、漁船同士の接触の恐れがあるなど危険な状況になっていました。



既存の上架施設（昭和63年当時）

そこで、第1港区へ漁船上架機能を移設し、第1港区を準備・休憩エリア、第2港区を衛生管理エリアとしてゾーニングし、衛生管理の徹底を図るとともに、併せて老朽化した上架施設を漁船大型化に対応した規格で更新することにより、上架機能の向上を図ることとしました。

上架施設については、遠別町が事業主体となり、既



遠別漁港全景

存のリフト式からクレーン式へ上架方式を変更して整備することとし、平成30年度から留萌開発建設部が船揚場整備、遠別町が上架施設整備を一体的に進め、令和2年1月に施設が完成しました。

施設完成により、地元漁船の修理・点検作業の効率化に加え、遠別漁港周辺を操業する漁船の故障等による緊急利用も可能となり、避難拠点としての機能強化も期待されています。

船揚場上架施設の完成を受け、本年4月からの供用開始を目指して準備を進めております。また、遠別町では供用開始に合わせた記念式典の開催を6月に予定しております。



完成した船揚場上架施設